平成24年度第7回遺跡見学会
平成24年10月13日（土）開催

幸手市 槙野地原遺跡（第2次調査）

槙野地原遺跡は幸手市の東端にあり、下総台地の西端部に位置しています。遺跡の北側には、西から東に向かって谷が入り込んでいます。第１次調査は、平成10年に幸手市教育委員会によって行われ、縄文時代前期の竪穴住居跡が発見されています。

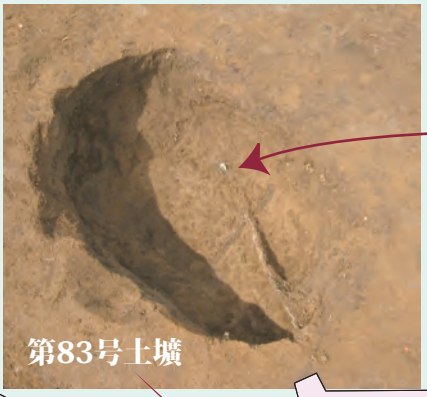
今回の調査は、江戸川の堤防強化工事に先立つものです。発見された遺構は、縄文時代前期（約6,000年前）と古墳時代前期（約1,700年前）の竪穴住居跡と、江戸時代前半の墓などです。

縄文時代の遺構は、調査区の南東側に数軒がまとまっており、竪穴住居跡からは形の復元できる土器が見つかりました。土壙は住居跡の近くにあり、その１基から貝がまとまって出土しました。

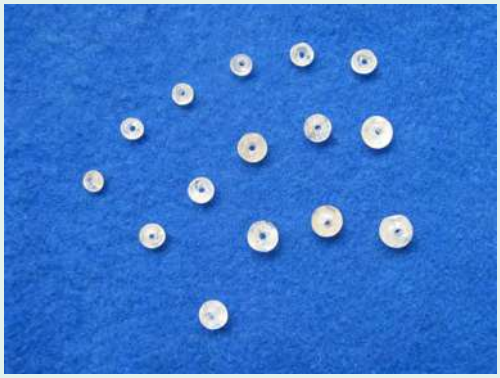
古墳時代前期の竪穴住居跡は、調査区北西部で１軒見つかっています。出土した土器は、下総地域に特徴的なものです。

江戸時代の墓と考えられる土壙は、調査区北側の谷に面した場所で発見されました。形は円形と楕円形のものがありますが、いずれも小規模なものです。土壙からは、紐で結ばれた古銭（寛永通宝・北宋銭）や、ガラス製の数珠玉が出土しました。

主催：公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
共催：埼玉県教育委員会　幸手市教育委員会
国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所



第83号土壙出土の古銭
（寛永通宝6枚が紐で結ばれていました。）

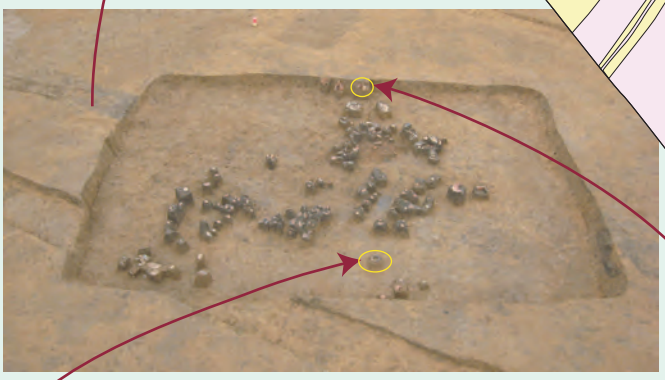


第73号土壙出土数珠玉
（ガラス製の数珠玉が15点見つかっています。大きさは、直径５～８㎜程度と小さく、紐を通すための穴があけられています。）

江戸時代の墓

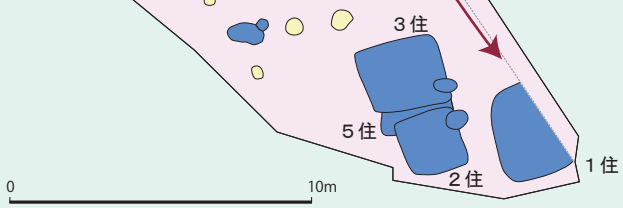
４住

第１号住居跡（縄文時代前期）
（東側は用水管の埋設で壊されています。遺物を取り上げると、床面から炉跡と柱穴が見つかりました。）



第４号住居跡（古墳時代前期）
（遺物を取り上げると、中央の奥側に寄った所から炉跡が見つかりました。）

異形器台（いけいきだい）
（器台とは安定の悪い器を載せる台のことです。
異形器台は下総地域によくみられます。
五徳（ごとく）としての機能が考えられています。）



縄文時代

古墳時代

江戸時代